

2 村上総合病院での四半世紀

小出 章

村上総合病院 脳神経外科

3 年老いた脳神経外科医の青春時代

佐々木 修

新潟市民病院 脳神経外科

4 次世代へのメッセージ

斎藤 隆史

長野赤十字病院 脳神経外科

5 私の歩いた道

－現役世代の脳神経外科医に明るい未来を－

竹内 茂和

長岡中央総合病院 脳神経外科

1975年4月の入局から2016年12月までの自分自身の足跡を辿り、患者さんのためにという観点から、論文作成の意義について述べた。

論文作成の動機付けは色々あって構わないが、それをを行うことで、論理的な思考が向上し、臨床現場での深い洞察力が養われる。このことにより、診療内容がより洗練され、患者さんのためになる。臨床研究の出発点は症例報告であり、英文論文を書けば世界との会話が可能となる。英語は嫌いでも、英文論文は書ける。

自分が経験した国内・外留学の魅力を紹介した。機会があり、状況が許せば、新潟大学脳神経外科学教室を一時期離れることも重要と考える。

急速に変化していく脳神経外科診療に柔軟に対応できる能力を身に着けることで、現役に一区切りをつける時期には、脳神経外科医となって良かったと思える自分がそこに居るであろう。自分の病院を愛し、与えられた能力と戦力で精一杯やることが、患者さんのためになるであろう。

「いつまでも For the patients !」を現役世代の脳神経外科医へのエールとしよう。